

岩室温泉まつり 7月29日・30日

今年も盛大に行われた岩室温泉まつり。

29日、小学生による金管バンド行進で幕を開け、夕闇迫る静けさの中、温泉街を練り歩く神輿渡御の行列。夜の暗闇をかき消して堂々と放たれる大スターメイン大会へと続きました。

30日は、子どもみこしに始まり、源泉公園の雁の前で温泉源泉まつり。幻想的な薄暗闇の中、華麗な舞を披露する芸妓屋台踊りと威勢よく汗が弾け飛ぶ芸妓若者みこしで最高潮に達したまつりは、大盛況のうちわ抽選会と続き、最後は独特の火柱が珍しい中国花火。真夏の夜空を彩っていました。



大輪の華を咲かせた「大スターメイン大会」▶



▶ 見物客を魅了する「芸妓屋台踊り」



ソイヤ! ソイヤ! 活気みなぎる「芸妓若者みこし」▶



夏の風物詩

祭り

神輿も心も
踊る夏



▶ 昔懐かしい和納十五夜まつりの「山車」。写真は和納浦町(七区)のもの(昭和22年9月17日撮影)

和納十五夜まつり 7月27日・28日

岩室の夏まつりの皮切りとなるのが和納十五夜まつり。

27日は、民謡流し。岩室音頭と岩室甚句で夏まつりの開幕です。28日は、少年たちが棒を巧みに操る棒遣を先頭のみこし渡御。三社神社から住吉神社までを往復します。その後、子どもみこしに金管バンド、打上花火へと続き、クライマックスは「草花火」と「仕掛け花火」。全国でも珍しい花火囃とともに披露され、長く伝えられた歴史を感じさせます。



▶ 勢いよく火の粉が舞う「草花火」

和納十五夜まつりの ぶ舞たい裏うら



▶ 身長ほどの長さの棒を巧みに操る「棒遣」

体力にも自信がなくなってきたし、こころ辺で身を引くべきかなと考える、この年を最後にわらじ作りをお断りしたということでした。22年もの間続けられたこの仕事。本当にお疲れさまでした。

さらに、八幡神社の鳥居の額ぶとんも、毎年まつりの時期に玉木さんが新調しているそうですが、それが昭和42年から今年まで続くこと、なんと35年間!! 当時、風雨にさらされて留め金に額ぶとんがほんのちよつとしか残っていないのを見つけて、始めたこの奉仕。毎年、みんなの幸せと健康を願って作っているそうです。

今年の6月には、このことで新潟県神社庁の功労者表彰を受章された玉木さんは、住吉神社の額ぶとんも和納5区の小林フミさんが辞められてから、作っているとのこと。「作るのが面白くて、つい時間を忘れてやってしまうんです」と話す玉木さんは、まつりの縁の下の力持ち。まだまだ現役です。

手先が器用で仕事が早く、いろいろ知ってる物知りばあちゃんといえば、和納3区の玉木ナセさん(81歳)です。縫い物なんてお手のもの。チラシで小物を作ったり、お手玉作って保育園に寄付したり、さらには人に頼まれて梅干しや漬物なんかも作ってしまう、まさにスーパーおばあちゃん。家にはいろんな人がいろんな話しを聞きにやってきます。

さて、そんな玉木さん…実は、棒遣の子どものわらじを、昭和47年から平成6年まで、22年間1人で作り続けていたのです。わらじ作りはとても重労働。夜なべして作るわらじは、一人ひとり丁寧に子どもの足に合わせていて、当日は棒遣の横について歩き、子どもたちを見守ったということ。

「任されているから責任があるし、その分だけ心配で、無事終わるとホッとしたもんです」と話す玉木さんですが、平成6年に途中でわらじが切れてしまうハプニングがあり、



今年も新しく置き替えられた額ぶとん▶

▼ 額ぶとんを縫う玉木ナセさん

